



平成29年1月1日発行

発行：香川医療生活協同組合
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P: <http://t-kyodo.com/>

新年のご挨拶



北原院長より

明けましておめでとうございます。2015年8月に高松協同病院の院長の任に就き、2回目の新しい年を迎えるに当たり自身としてもあらためて身の引き締まる思いです。この1年の間に様々な病院やクリニックの先生方、スタッフの方々とも親交を深める機会に恵まれ、お互いに顔の見える地域連携の大切さを実感する日々を過ごさせていただきました。いよいよ迫る地域包括ケア時代に向けて、今後も医師、歯科医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、医療事務等のチームみんなで協力し、そしてもちろん行政の関係者の方々とも連携しながら個々の患者の方々や地域で暮らす方々全体のADL及びQOLの向上を目指していく所存です。昨年同様、これからも引き続き入院患者にはもちろんのこと、外来リハ、訪問リハ、通所系サービス等あらゆる場面でリハビリテーションの理念を地域の中に浸透させていくというこの病院の使命を果たしていく決意です。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



植木副院長より

あけましておめでとうございます。

昨年は田中先生の生協みき診療所への移動や内科体制の縮小、外来電子カルテの更新など、当院にとっては大きな変化のある1年でした。病棟でも開院当初と比べて重度で転院される患者様が多く、合併症や認知面の対応に苦慮することが多くなっています。

ここ数年の病棟医療での変化は、「自宅」退院率の減少です。脳卒中で麻痺が残ったり、整形の術後で生活に援助が必要な方が多い当院ですが、自宅での1人暮らしや日中介護者がいない家庭が多くなり、生活していた「自宅」へ帰られる方が減少しています。また、階段が上がれない、家賃が払えないなどで自宅を退去せざるを得ない場合も出てきています。施設の入居費用は安くても月8万円以上、普通は15万円前後必要です。制度などを利用して少しでも入居しやすいように準備していますが、ここ数年でお金がないと老後も安心できない現場をヒシヒシと見せつけられています。病気を治療したあと、安心に生活するための場所探しが必要な今日この頃です。

病気や事故で障害を背負ってしまう危険は誰にでもありますが、ここ数年の制度改悪で障害を背負ったあとの生活保障はどんどんひどくなっています。病気や障害になっても安心して生活できる社会にしていきたいと思う今日この頃です。



北原紀子先生より

新年おめでとうございます。

外来診療をさせて頂いている北原紀子と申します。特に待ち時間に関しまして、大変ご迷惑をおかけして申し訳ありません。学習や体制作りを重ねることで改善できるよう頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。さて、昨年は「障がい者」や「外国人」等に対する差別意識が顕在化したり、香川を含め日本各地で地震が起こったり、夏の参院選で野党共闘が一定の効果を上げたり、色々な出来事があり、心の揺れる一年でした。2017年も、「何も無い平穏な一年」という訳にはいかないでしょうが、何かあったときには相談して頂ける病院、スタッフを目指したいと思っています。なにとぞ、よろしくお願い致します。



第14回

健康祭り



11月13日(日) 第14回高松協同病院健康まつりが開催されました。

お天気に恵まれ暖かく絶好のおまつり日和で、約930人と多くの方にお越しいただきました。木太中学校ブラスバンドのオープニングではじまり、和太鼓集団「満天」の演技に圧倒されました。フラダンスやバンド演奏、キッズダンスも大好評。締めは恒例の阿波踊り、大勢の方が踊りの輪に加わり楽しみました。

地域の組合員さんが出店したうどん、からあげ、焼きそばなどのバザーも大人気で思いのほか早い時間に売り切れ、協力いただいた組合員さんや職員もてんでこ舞いでした。今年は高松市社会福祉協議会、地域の自治会長など10名の来賓の方にご参加頂き、地域の中で高松協同病院が認められていることをあらためて感じる事ができました。



第9回地域連携懇談会

12月14日(水)、第9回地域連携懇談会が17事業所、23名のケアマネージャーの皆さまの参加で行われました。

当院からの報告は①宮野S Wによる「退院支援加算の算定開始に伴って行われる入院患者様への退院支援の実際」、②訪問リハビリ科藤村言語聴覚士による「訪問リハビリ利用者の栄養サポートの症例」、③生協みき診療所田中所長による「訪問診療におけるケアマネージャーとの協働と期待」の3題でした。

後半のグループ討議では、「高松協同病院は医師を含めたチームカンファレンスをしている点がとても助かっている」「高松協同病院には急性期病院からの生活環境の情報提供が少なく在宅に向けた判断ができにくいいためケアマネさんからもお手数ですが情報を頂きたい。」など各事業所が持つ課題も双方で確認し合いました。また「ひとつひとつの共同カンファレンスが退院支援につながっている」ことを実感しました。

参加された皆さんから「身寄りがない」「利用者さんの病状の受容がない」などの困難事例の共有ができたほか、「利用者に適切なサービス計画を提供するためには、医師も一緒に考えて欲しい」などの深い話し合いができました。「あっという間に時間が過ぎ、楽しい時間でした」との感想もいただきました。

今後も、懇談会を継続開催して地域ぐるみの円滑な連携を深めたいと思います。



元気会 秋の遠足



毎年、恒例の元気会による『秋の遠足』が平成28年11月19日(土)に開催され、会員・付き添い様29名、職員14名の多くの参加者が集まりました。前日の天気予報では、雨の予報でしたが当日は雨も上がり、無事遠足に行くことができました。

午前中は、徳島県の阿波十郎兵衛屋敷に人形浄瑠璃の鑑賞に行きました。徳島県は古くから人形を作る職人の方が多くおられ、伝統芸能である人形浄瑠璃が様々な地域で行われていました。鑑賞後、会員様や付き添いの方々の中には感動により涙を流される方もおられました。

昼食は、阿波之里でおいしいご飯を食べ、お土産を買う方やアイスクリームを食べている方もおられました。

午後は、金長まんじゅう工場へ見学に行きました。工場の中の機械が金長まんじゅうを造っていく工程は驚きのもが多く、感動するものがありました。その後、お土産コーナーへ足を運び数多くの種類の金長まんじゅうを手に取り、みなさんたくさんのお土産を買われていました。中には、西病棟で行われる「山田 規玖子先生の談話会」で出された金長まんじゅうに感動し、楽しみにされていた会員様もおられました。

今回の、『秋の遠足』も多くの方が楽しまれた印象がありました。次回もたくさんの方々に参加して頂けるようスタッフ一同楽しみにしています。



いつもはご夫婦で参加されていた方ですが、奥様がお亡くなりになりました。奥様が今回の参加をとても楽しみにされていたので、旦那様は奥様の写真を抱いて、いっしょに鑑賞しておられました。



入院中、山田先生の座談会に参加し談話を聞き、その時に食べた金長まんじゅうの甘さで心を救われたそうです。その金長まんじゅうを自分の足で歩いて買いに来れたと涙ながらに語ってくれました。

リハビリ研究会

高松協同病院では、毎月1回リハビリの全職種が集まり、約1時間の学習会を行なっています。内容として県内外から講師をお呼びして講義をして頂き知識を深めています。また、各チームが発表をまとめ、全体に対して取り組んでいることを伝達することでお互いに良い刺激となる場となっています。先日行われた11月の学習会は当院副院長の植木 Dr.による講義でした。内容として脳卒中ガイドラインに基づきFIM効率をどう上げていくかについてでした。普段できないようなディスカッションができとても良い勉強となりました。今後もこの研究会を継続していき、知識や技術向上に繋げて行きたいと思っています。



新年のご挨拶



歯科衛生士より

新年おめでとうございます。

高松協同病院には昨年10月に入職した中村歯科衛生士と今年10月から生協へいわ歯科より異動した谷歯科衛生士が勤務しております。2名の歯科衛生士が病棟に所属することで、入院患者様の口腔ケアをより専門的に実施するとともに、口腔環境を良くすることの必要性を患者様にお伝えし、訪問歯科診療につなげることも行っています。

清潔な口腔環境は誤嚥性肺炎予防や咀嚼力向上につながり認知機能の低下を防ぐことができます。他にも嚥下障害のある患者様への嚥下マッサージの実施や入院中の患者様に口腔ケアを習慣化していただき、退院後も口腔環境を良好に維持していただけるよう頑張っております。これからも宜しくお願い致します。



地域ケア部より

あけましておめでとうございます。

「今年の冬は暖冬」との予想もどこへやら。寒さが身に凍みる今日この頃皆様いかがお過ごしでしょうか？ 昨年の地域ケア部は医師や職員の異動・退職なども重なり、利用者様からの要望があってもなかなか十分な対応ができず苦戦を強いられた年となってしまいました。しかし私たちを取り巻く世の中は容赦なく変化をもたらしています。国による新たな「地域医療構想」の策定が提唱され病院から地域での生活への誘導が強まる一方、支えとなるべき介護保険は軽度の方の「総合事業」への誘導、施設入居における「補足給付」や一定の収入以上の方の自己負担増など厳しい情勢が続きますが、カー一杯地域で一体となってサポートをしていきたいと考えています。今年も宜しく願いいたします。



デイサービス協同より

明けましておめでとうございます。

当事業所は、定員12名の小規模のデイサービスです。暮らし慣れた自宅や地域で生活が続けられるよう、色々な介護サービスを提供しています。

お彼岸にはおはぎを作ったり、クリスマスには折り紙でリース飾りを製作したり・・・季節の行事も色々取り入れています。自宅では体験出来ないことも、仲間がいれば楽しくできます。

今年も、笑顔の絶えない明るいデイサービスにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

